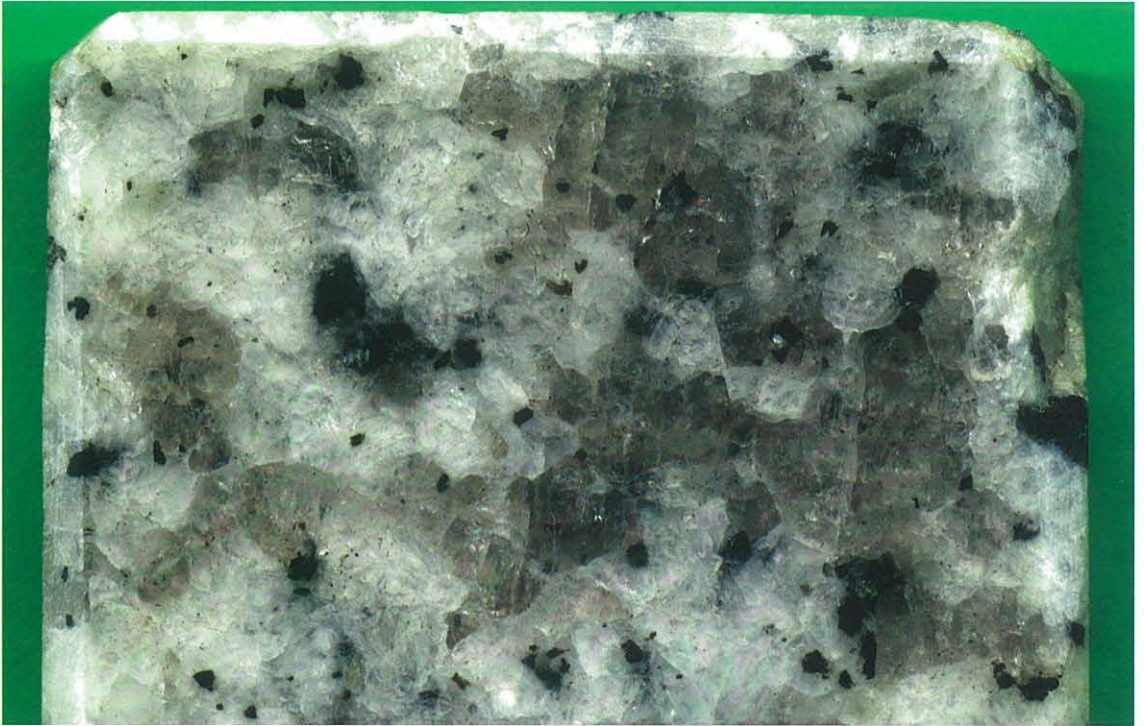


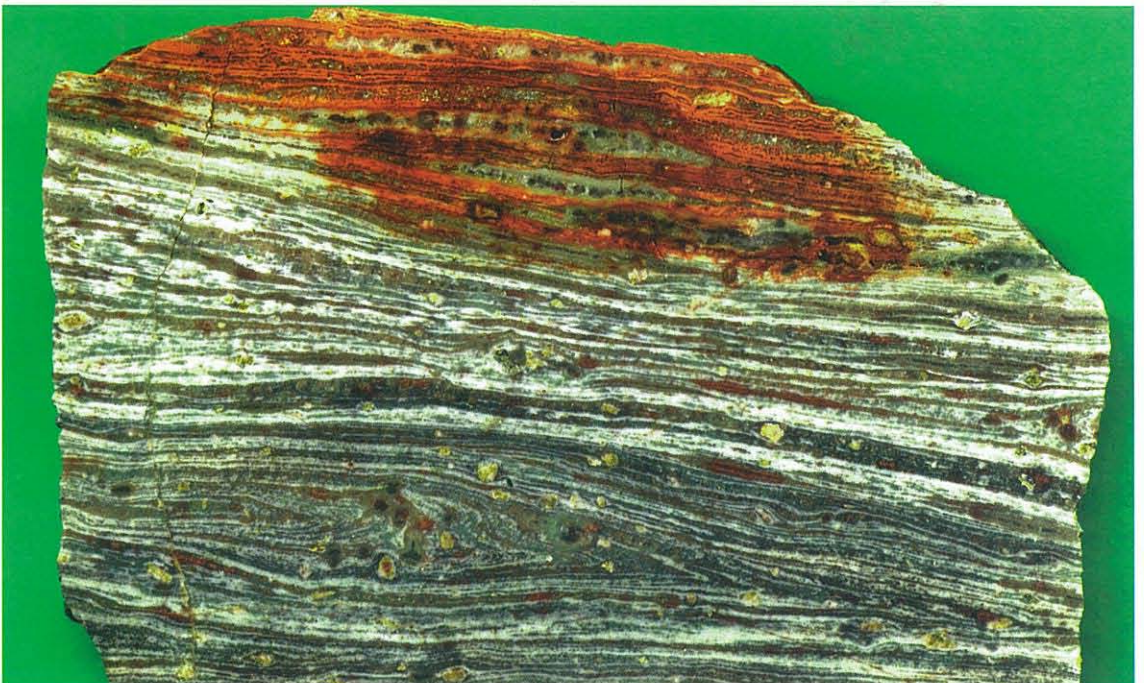
スキャナーによる観察例

〈須藤 定久〉

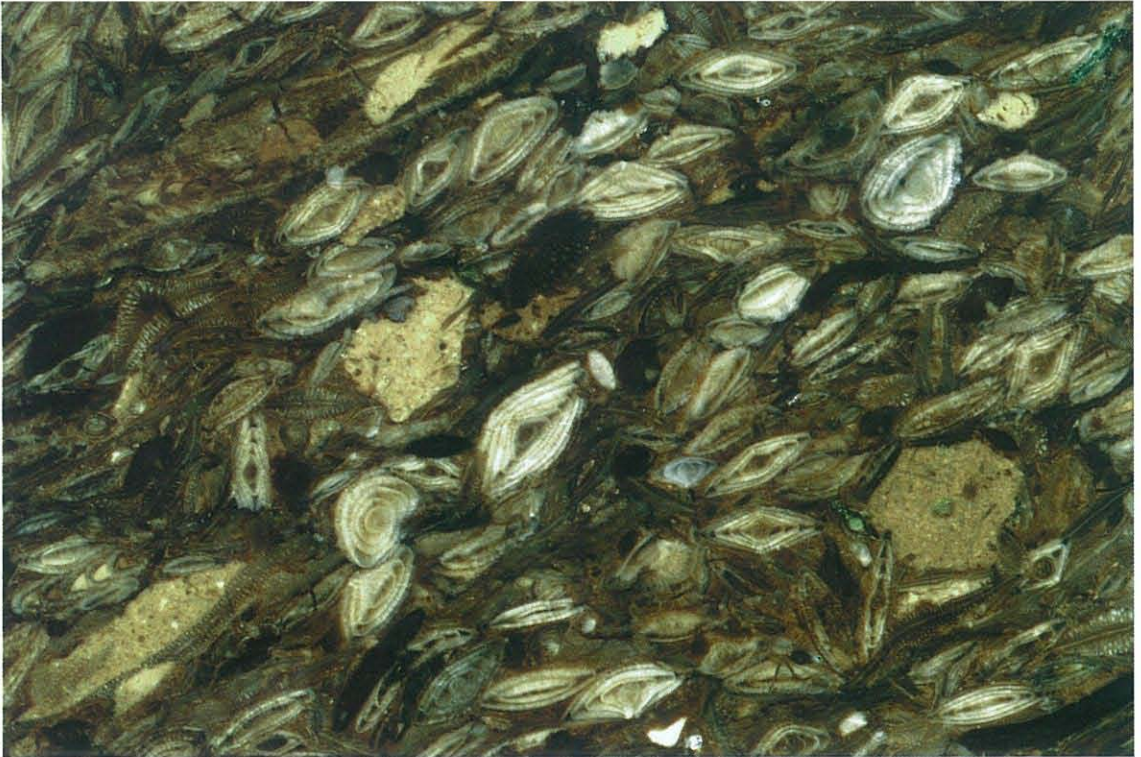
身近な岩石や鉱石などについてスキャナーを使って得た画像を紹介してみよう。観察の詳細については本文(46-52ページ)を参照してください。



1. 石材用に研磨された花崗岩(約4倍). 石材屋さんから端材をもらってきて、研磨された面をスキャナーで覗いてみた。石英や長石の透明感まで感じられる。



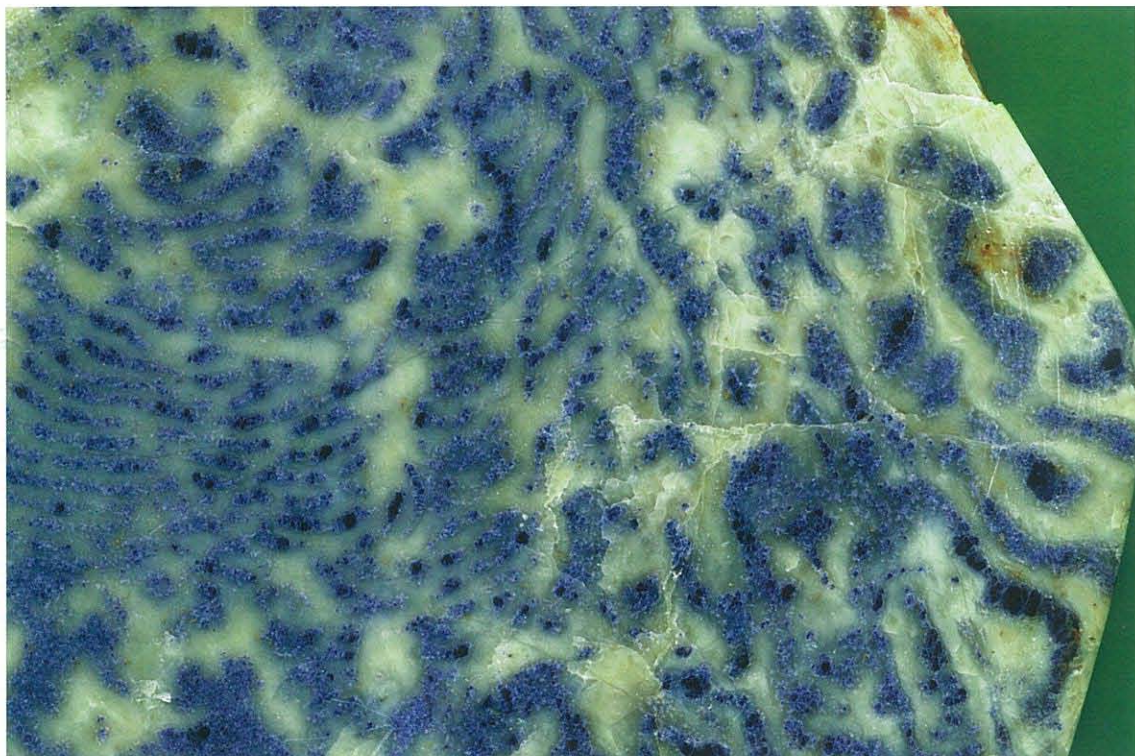
2. 流紋岩の流理構造(約1.5倍). 細かな流理構造が発達する。画像処理ソフトでコントラストを強くすると、流理構造が明瞭に見えてくる。上部の赤色部は鉄分の酸化によるものだろう。



3. 貨幣石を含む石灰岩(約3.5倍). パキスタン土産の石灰岩製「灰皿」の底面から読み込んだもの. やや透明感があるために、ボケているように見える部分もある.



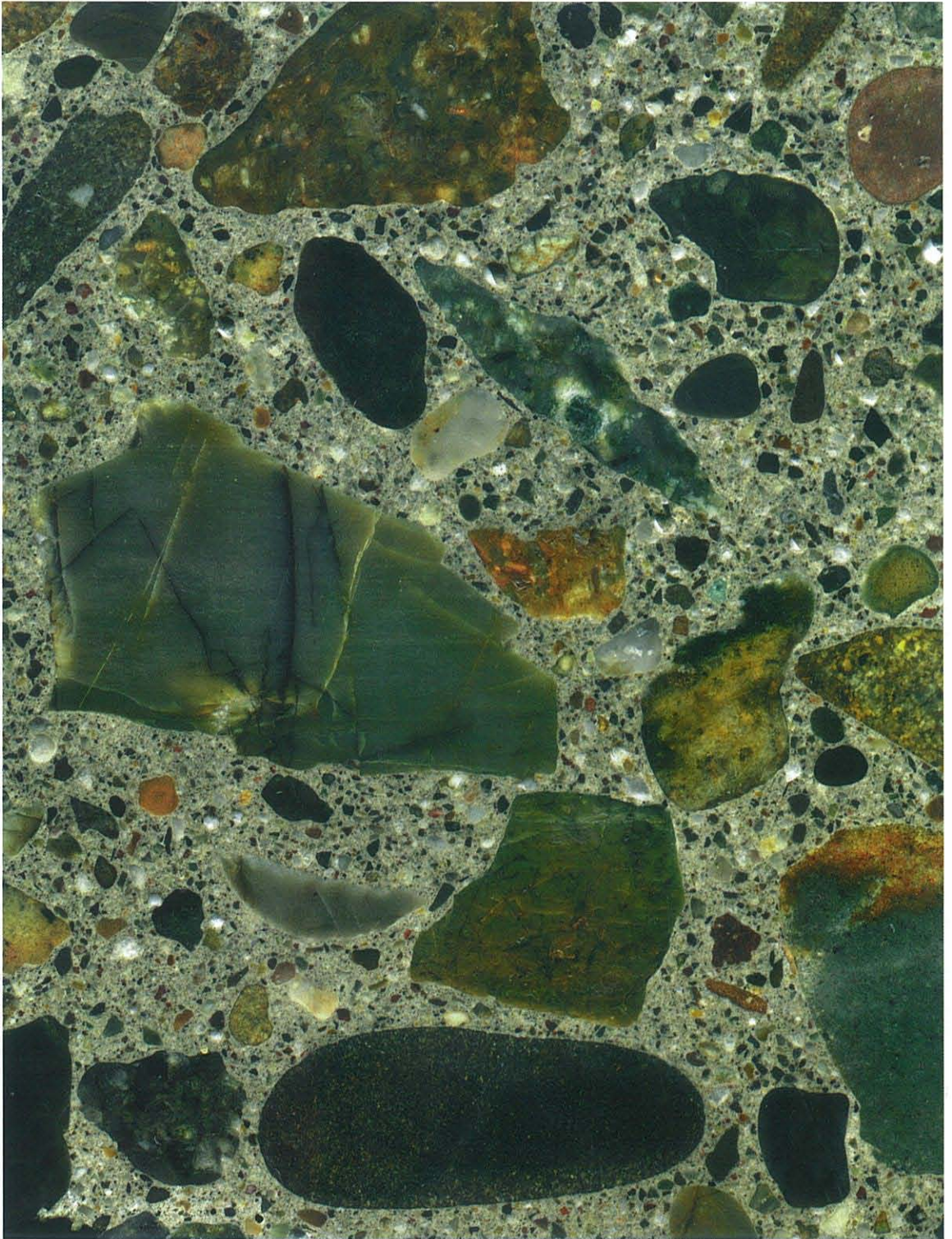
4. オニキスの示す鮮やかな縞状構造(約6.3倍). パキスタン土産のオニキス製「ワイングラス」の底面から読み込んだもの.



5. コランダムを含む最高品位のろう石鉱(勝光山・西山東鉱床産の虎石, 1.8倍). この鮮やかな模様はどんなふうに来たのか? については機会を改めてお話ししよう.



6. 北海道光竜鉱山産金鉱石(約0.8倍). 清水 徹博士所蔵の試料. 石英脈は右から左へ縞模様を作りながら成長, 末期には水晶がニョキニョキと晶出したようだ. 一部に紫水晶も見られる.



7. コンクリートの断面。試料は産業技術総合研究所構内の廃棄物(約3.8倍)。コンクリートはまさに人工の礫岩、大きな礫の間に小さな礫が、その間を砂が埋め、さらにその間をセメントの固化物が埋めている様子がよくわかる。骨材にはチャート・砂岩・頁岩のほか珪長質な火山岩類・半深成岩類が多く見られる。この礫種の構成から、砂利や砂はいったいどこのものが使われたのだろうか？